

充実の安心機能

警戒パターンメモリー機能

警報機が動作中に警報機の電源(バッテリーなど)が切られた場合でも、電源が切られる前の状態を警報機が記憶し、電源が再投入された時点から再度警戒を開始する機能です。行為的に電源が切られた場合でも、警報機は自動停止しません。

本体のオートスリープ機能

バッテリーを保護する機能です。3つのモードで段階的にバッテリーの消耗を抑え、バッテリーの負担を軽減します。

省エネモード

7日間連続で警報機を動作させた場合、省エネモードに入り、ドアスイッチセンサー以外のセンサーを全て停止します。またアンテナユニットのLED表示も遅い点滅となります。但し、スリープモード1の条件(14日間エンジンを開始しない)が、省エネモードの条件よりも先に当てはまると、スリープモード1に入ります。

- 【メモ】
- 下記以外のリモコン操作を行った場合は、本体受付エラー(Eと3が交互に表示)が表示されます。
 - 警報機の再動作およびドア再施錠してもハザード表示しません。
- 【リモコンで行える操作】
- 警報機の停止/再動作
 - エンジンの始動/停止(エンジンスターターキット(別売)接続の場合)
 - 警報履歴の確認
 - ドアの再施錠

- 【車両側が行える警報】
- サイレン/ホーン(選択)
 - ハザード
- 【省エネモードが解除される行為】
- ドアを開け警報を行った場合
 - リモコンで警報機を停止した場合

スリープモード1

下記どちらかの条件に当てはまるとスリープモード1に入り、ドアスイッチセンサー以外のセンサーを全て停止します。またアンテナユニットのLED表示も停止します。

- 【スリープモード1の条件】
- 14日間連続で警報機を動作させた場合。
 - 14日間エンジンを始動させない状態が続き、そのとき警報機が動作していた場合。

【メモ】リモコン操作を行った場合は、通信エラー(Eと2が交互に表示)が表示されます。

- 【リモコンで行える操作】
- リモコン操作は、一切出来ません。
- 【車両側が行える警報】
- サイレン/ホーン(選択)
 - ハザード
- 【スリープモード1が解除される行為】
- ドアを開け警報を行った場合

スリープモード2

14日間エンジンを始動させない状態が続き、そのとき警報機が停止していた場合、スリープモード2に入り、本体機能を全て停止します。

【メモ】リモコン操作を行った場合は、通信エラー(Eと2が交互に表示)が表示されます。

- 【リモコンで行える操作】
- リモコン操作は、一切出来ません。
- 【スリープモード2が解除される行為】
- エンジンキーにてエンジンを始動した場合

リモコンのオートスリープ機能

リモコンの電池容量を確保するための機能です。2つのモードで段階的に電池の消耗を抑え、電池の負担を軽減します。

低電圧モード

アイコン表示が1目盛(□)になった時点で、低電圧モードの通知音「ピピピピピピピッ」が鳴り、バックライトとバイブレーションの機能を停止します。

【メモ】マナーモード時は、音を発しません。

スリープモード

低電圧モードの通知音「ピピピピピピピッ」が鳴ってから約3分後、強制的に電源を切ります。その後は、再度電源を入れることで警報機停止操作(警戒OFF)が、5回程度行えます。このような状態になった場合は、すぐに充電を行ってください。

【メモ】マナーモード時は、音を発しません。

振動センサーの感度調整方法

ご購入時、振動センサーの大・小の各感度調整は、それぞれ最大(最も"敏感")に設定されています。

ステップ 1 リモコンで警報機を動作させます。
「警戒ステージ1_警報モードA」の警戒パターンで警報機を動作させて下さい。

ステップ 2 アンテナユニットの赤色LEDが点滅を開始してから、どの位の振動でセンサーが感知するか確認して下さい。

注意 動作確認で車へ振動を与える場合、強く叩きすぎてケガをしないように気をつけて下さい。
またガラスやボディなどが、破損しないように十分注意して下さい。万一破損などが発生しても、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。

【メモ】一旦センサーが感知すると、その後約5秒間は同レベルの振動(小振動あるいは大振動)を感知しません。

大振動センサー感知の場合



注意警報時(5秒警報)

小振動センサー感知の場合

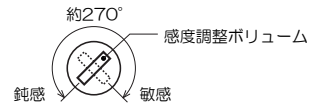


威嚇警報時(1秒警報)

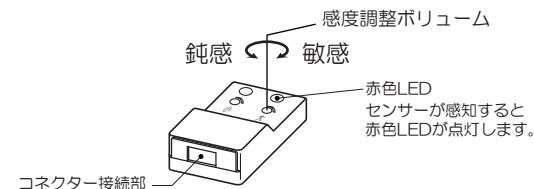
ステップ 3 振動センサーの感度を調整します。

大振動と小振動の感度調整ボリュームを付属の感度調整ドライバーを使用し、希望する感度に調整して下さい。

注意 ・感度調整ボリュームは、力を入れず軽く回して下さい。
無理に回すと破損します。
・感度調整ボリュームは360°回転しません。

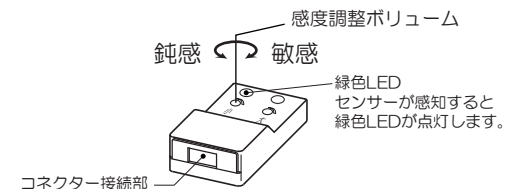


【大振動センサー感度調整】



時計回り	感度が「敏感」になります。
反時計回り	感度が「鈍感」になります。

【小振動センサー感度調整】



時計回り	感度が「敏感」になります。
反時計回り	感度が「鈍感」になります。

【メモ】・大振動を感知した場合は、振動センサーの赤色LEDと一緒に緑色LEDも点灯します。
・本品の振動センサーは、主に窓ガラスを割られた際に発生する衝撃に対して感知させることを想定しております。車両によってボディを軽く叩く程度の衝撃にも感知させることが出来ますが、その場合は、犯人に対する威嚇効果を高められる反面、付近を車が通過したときなどに発生する外乱振動でも感知する可能性が高くなります。住宅密集地等の警報音が近所迷惑となるような場所では、適切と思われる感度に調整してお使い下さい。

小振動感度調整推奨例

小振動センサーの感度は、警戒パターン「警戒ステージ1_警報モードA」の状態で運転席または助手席側のガラスを強めに叩いたときに、威嚇警報(1秒警報)で警報するように感度調整して下さい。

調整上の注意

・振動センサーの感度を上記のように調整して頂くことで、外乱振動による誤動作を大幅に軽減することが出来ますが、下記のような状況下では、警報してしまう場合があります。

1. 強風・豪雨・雷雨・台風などの気象条件の場合。
2. 地震が起きた場合。
3. 線路付近・幹線道路沿い・工事現場付近・飛行場付近などの振動が発生する場所。

・振動センサーの感度は、車両の大きさやボディ剛性によって異なります。特にRV車や1BOX車などの大型車は、リヤガラスなどの車両後部に加えられた衝撃に対して感知出来ない場合があります。

ステップ 4 希望する感度に調整出来たら、警報機を停止(警戒OFF)して下さい。

以上で振動センサーの感度調整は、終了です。